

実務経験のある教員等による授業科目一覧【鍼灸学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
東洋医学概論 1	2	馬男木 亨		
東洋医学概論 2	2	馬男木 亨		
経絡経穴概論 1	2	篠原 卓也		
経絡経穴概論 2	2	松井 恵理		
経絡経穴概論 3	2	松井 恵理		
東洋医学診断論 1	2	松井 恵理		
東洋医学診断論 2	2	村上 晋介		
東洋医学臨床論 1	2	松井 恵理		
東洋医学臨床論 2	2	馬男木 亨		
東洋医学臨床論 3	2	馬男木 亨		
鍼灸理論 1	2	宮原 正人		
鍼灸理論 2	2	黒川 典子		
社会鍼灸学	2	松井 恵理		
基礎実技 1	1	山中 良太		
基礎実技 2	1	黒川 典子		
基礎実技 3	1	山中 良太		
基礎実技 4	1	黒川 典子		
応用実技 1	1	村上 晋介		
応用実技 2	1	馬男木 亨		
応用実技 3	1	松井 恵理		
応用実技 4	1	大庭 慎一郎		
応用実技 5	1	大庭 慎一郎		
応用実技 6	1	篠原 卓也		
臨床実技 1	1	山野 州康		
臨床実技 2	1	大中 孝子		
臨床実技 3	1	宮原 正人		
臨床実技 4	1	村上 晋介		
臨床実技 5	1	馬男木 亨		
臨床実習 1	1	大中 孝子		
臨床実習 2	1	大中 孝子		
臨床実習 3	1	大中 孝子		
臨床実習 4	1	大庭 慎一郎	村上 晋介	松井 恵理
		篠原 卓也	黒川 典子	宮原 正人
		馬男木 亨	山中 良太	
総合演習 1	2	大庭 慎一郎	村上 晋介	松井 恵理
		篠原 卓也	黒川 典子	宮原 正人
		馬男木 亨	山中 良太	
総合演習 2	2	大庭 慎一郎	村上 晋介	松井 恵理
		篠原 卓也	黒川 典子	宮原 正人
		馬男木 亨	山中 良太	

実務経験のある教員等による授業科目一覧【鍼灸学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
総合演習 3	2	大庭 慎一郎	村上 晋介	松井 恵理
		篠原 卓也	黒川 典子	宮原 正人
		馬男木 亨	山中 良太	
総合演習 4	2	篠原 卓也		
総合演習 5	2	宮原 正人		
総合演習 6	2	大庭 慎一郎	村上 晋介	松井 恵理
		篠原 卓也	黒川 典子	宮原 正人
		馬男木 亨	山中 良太	
合 計	57			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	自然科学1				担当者名	井手 貴治 大崎 康吉、鶴留 優也					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					40						
授業概要	自然の一つである人体を科学的な観点からみていく授業。人体の大枠である生物を主体に物理、社会学などを広く学ぶ。										
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する。										
その他	井手 貴治、大崎 康吉、鶴留 優也(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	地球誕生～生命の誕生
2	バージェス動物群
3	共進化
4	5大絶滅
5	生きている化石(植物)
6	生きている化石(動物)
7	生物の細胞について
8	生物の進化
9	様々な生物(鳥類)
10	進化と発生
11	顕微鏡と組織染色
12	体内時計①薬学入門①
13	薬学入門②、漢方学①
14	漢方学②
15	BBBとタイトジャンクション、体内時計②
16	薬理学(導入～ジェネリック医薬品)
17	薬理学(導入～薬の種類)
18	薬理学(薬物動態～分布)
19	薬理学(薬物動態)
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野									
	○											
授業科目名	自然科学2			担当者名	井手 貴治 大崎 康吉、鶴留 優也							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								40				
授業概要	自然の一つである人体を科学的な観点からみていく授業。人体の大枠である生物を主体に学び、そこから人体組織に関しても学んでいく。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他	井手 貴治、大崎 康吉、鶴留 優也(実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	遺伝子雑種、検定交雑
2	遺伝子雑種、検定交雑
3	中間雑種、血液型
4	血液型、補足遺伝子
5	伴性遺伝、性と遺伝、染色体異常症候群
6	伴性遺伝、ショウジョウバエの眼の色の遺伝
7	伴性遺伝、血友病、形質転換
8	バクテリオファージの実験
9	遺伝子の本体DNA
10	中間試験 遺伝
11	DNAについて(タンパク質合成)
12	体液について、体液の循環
13	酸素解離曲線
14	血液凝固、生体防御
15	生体防御、自然免疫
16	獲得免疫、予防接種
17	血清療法、自己免疫疾患
18	国試解答
19	腎臓と肝臓 問題集
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	社会科学				担当者名	菅 典雄					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2					前期	後期	前期	後期	前期
					40						
授業概要	経済学と経営学の概念や社会環境の中での機能について理解することを目的とする。										
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する。										
その他	菅 典雄(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	経営学(1) みんな違って、みんないい
2	成功する鍼灸院の経営
3	治療院の経営(医療と財務の調和)
4	プロフェッショナルは共感の心がつくる
5	仕事人は個の参加する社会を創る
6	ドラッグアの経営学①会社の目的は顧客の創造
7	ドラッグアの経営学②マーケティングとイノベーションが事業のカギ
8	ドラッグアの経営学③イノベーションとはいいい変化を起こすこと
9	ドラッグアのマネジメント
10	もし高校野球の女子マネージャーがドラッグアを読んだら
11	ドラッグア経営学:キーワード
12	施術メニューの考え方:イノベーション?
13	マーケティングの実際
14	コラーの経営学①マーケティング
15	コラーの経営学②市場の細分化
16	フラガールにおける経営学①
17	フラガールにおける経営学②
18	リーダーシップ、リーダーとは?
19	総復習
20	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
	○											
授業科目名	外国語					担当者名	工藤 和男					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	40											
授業概要	「人体の器官」では人体の機能をつかさどる各器官の英語表現を、「英作文演習」では医療現場で使用される英語表現を学習する。本学習により医療従事者にとっての英語表現の基礎を習得させる。											
成績評価	定期試験、再試験、授業態度及び出席状況を総合的に勘案して評価する。											
その他	(講義の都度各資料配布) 資料1:「人体の器官」(各器官の構造とその英語表現) 資料2:「英作文演習」(医療現場での英語表現) 工藤 和男(実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	授業計画に基づいた資料		
参考図書	看護英語の基本用語と表現	著者 円城寺康子／川越栄子	メジカルビュー社

回数	授業計画
1	人体の器官1(人体の各部位と臓器)、 英作文演習 医療現場での英語1(外来)
2	人体の器官2(心臓／肝臓)、 英作文演習 医療現場での英語2(病棟案内-1)
3	人体の器官3(消化器官／消化酵素)、 英作文演習 医療現場での英語3(病棟案内-2)
4	人体の器官4(膵臓の働き)、 英作文演習 医療現場での英語4(食事)
5	人体の器官5(脳／耳)、 英作文演習 医療現場での英語5(排泄)
6	人体の器官6(小腸と大腸)、 英作文演習 医療現場での英語6(入浴)
7	人体の器官7(目／副腎)、 英作文演習 医療現場での英語7(睡眠)
8	人体の器官8(皮膚／脾臓)、英作文演習 医療現場での英語8(病歴聴取-健康上の習慣)
9	人体の器官9(腎臓)、 英作文演習 医療現場での英語9(病歴聴取-排泄)
10	人体の器官10(呼吸器／血管)、英作文演習 医療現場での英語10(病歴聴取-手術、薬、病状)
11	人体の器官11(口と歯／食道)、英作文演習 医療現場での英語11(血圧検査／体温検査)
12	人体の器官12(脊髄／末梢神経)、英作文演習 医療現場での英語12(血液検査／尿、便検査)
13	人体の器官13(血液の循環と構成)、 英作文演習 医療現場での英語13(投薬)
14	人体の器官14(3大疾患)、 英作文演習 医療現場での英語14(注射、包帯)
15	人体の器官15(免疫システム)、 英作文演習 医療現場での英語15(体位)
16	人体の器官16(リンパ)、 英作文演習 医療現場での英語16(入院)
17	人体の器官17(内分泌腺とホルモン)、 英作文演習 医療現場での英語17(手術)
18	人体の器官18(脳の構造)、 英作文演習 医療現場での英語18(症状を訴えるA)
19	人体の器官19(三大／五大栄養素)、 英作文演習 医療現場での英語19(症状を訴えるB)
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	人文科学				担当者名	井浦 ひとみ					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	将来臨床現場において必要な人材となりうるためにコミュニケーション学の概念や理論を学び、言語や非言語によるコミュニケーションと対人関係との相互作用についての理解を深めることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	井浦 ひとみ(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	現代コミュニケーション学	池田 理知子 著	(株)有斐社

回数	授業計画
1	キャリアと豊かな仕事生活①:働くということ
2	キャリアと豊かな仕事生活②:働くということ、仕事への取り組み方①②
3	ビジネスマナーの基本①:ビジネスマナー、職場でのコミュニケーション
4	ビジネスマナーの基本②:社会人としての基準
5	ビジネスマナーの基本③:職場でのコミュニケーション、円滑なコミュニケーション
6	ビジネスマナーの基本④:社会人としての身だしなみ①②
7	ビジネスマナーの基本⑤:マナーの模擬試験
8	就業中のマナー①:入社から退社まで、態度や行動
9	就業中のマナー②:仕事での態度や行動、感じの良い挨拶
10	就業中のマナー③:就業中のマナー
11	就業中のマナー④:お辞儀の基本とお客様との接し方
12	マナーの模擬試験、指示の受け方と報連相①
13	指示の受け方と報連相②:話を聞くポイント、報告の仕方
14	指示の受け方と報連相③:中間報告、相談と忠告の受け方
15	指示の受け方と報連相④:練習問題、模擬試験
16	話し方の基本①:ビジネスにふさわしい話し方、模擬試験
17	話し方の基本②:印象が良くビジネスにふさわしい話し方、ビジネスの場での言葉遣い
18	話し方の基本③:プレゼンテーションの基本と自己紹介、話し方の基本
19	理解度チェック
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	保健体育理論1			担当者名	得本 啓次						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					40						
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。										
成績評価	レポート30%, 試験70%										
その他	本講義は生涯スポーツトレーナー(ベーシック)の資格取得を目指す 得本 啓次(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園

回数	授業計画
1	ガイダンス 自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢、評価方法
2	生涯スポーツ概論 生涯スポーツと健康、生涯スポーツ・トレーナーの役割
3	トレーニング法 イメージトレーニングの基礎知識とマインドセット
4	解剖生理学 解剖学、生理学の概要、骨の組織構造
5	トレーニング法 イメージ結合法の理解と実践
6	解剖生理学 筋肉の構造とはたらき、筋収縮のメカニズム
7	トレーニング法 イメージトレーニングの実践、発表
8	スポーツ心理学 カウンセリング、人間の心身発達理論
9	スポーツ心理学 コミュニケーションスキル種類を理解し、方法論を学び指導に繋げる
10	スポーツマネジメント チームマネジメント、マーケティング戦略を理解し健康社会の貢献
11	健康科学 日常生活での運動の重要性や姿勢の大切さ
12	生涯スポーツ 日常生活で取り組める運動を学び実践
13	解剖生理学/運動指導 子どもの身体の特徴と子どもの運動指導
14	解剖生理学/運動指導 高齢者の身体の特徴と高齢者の運動指導
15	関連法規 生涯スポーツトレーナーに関わる法律や関連する法律
16	運動処方 運動の計画、健康運動の目標計画
17	生理学 エネルギー代謝、ATP再合成
18	総括 各項目の用語の確認と復習
19	総括 まためと資格試験対策
20	終講試験 終講試験の実施

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
	○										
授業科目名	保健体育理論2			担当者名	得本 啓次						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。										
成績評価	レポート30%, 試験70%										
その他	生涯スポーツトレーナー(アドバンス)の資格取得を目指す 開講の順番は変更する可能性があります。 得本 啓次(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本 車いす フィットネストレーナー教本 ティーボールティーチャー指導教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 吉村 正	学校法人 国際学園 学校法人 国際学園 体育教育出版会

回数	授業計画	
1	スポーツ心理学	ガイダンス、より良い人間関係を築くための心理学
2	栄養学	スポーツ栄養学三大栄養素
3	栄養学	スポーツ栄養学五大栄養素 ミネラルとビタミンの役割
4	障がいスポーツ	障がいスポーツの歴史、車いすの種類と仕組み
5	障がいスポーツ	障がい者のトレーニング適応と実技指導
6	障がいスポーツ	車いす試乗 校外
7	運動指導	ティーボール スポーツ・コンプライアンス概論
8	運動指導	ティーボール ルール, 審判方法, 運営方法, 指導法
9	運動指導	高齢者の運動指導方法の特性と留意点
10	指導法	トレーニング指導法理論、トレーニング方法の理解
11	運動指導	ティーボール 捕る投げる打つの基礎動作
12	運動指導	ティーボール 試合形式練習と試合運営
13	コンディショニング	基礎理論, アライメントチェック
14	コンディショニング	コンディショニング体操
15	運動指導	子どもの運動指導方法の特性と留意点
16	指導法	トレーニング指導法実施、グループワーク
17	スポーツ医学	筋膜リリースと疲労回復
18	スポーツ医学	筋膜リリースのセルフマッサージ
19	総括	各分野の確認と試験対策
20	終講試験	終講試験の実施

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学1			担当者名	大庭 慎一郎						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期
						40					
授業概要	本科目の目的は骨の構造、形態および機能、筋の構造、形態および機能について、患者さんに対して説明できるように内容を理解する。また、自身で専門書などで勉強する時のためにも専門知識を身につける。										
成績評価	原則として、小テスト、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	大庭 慎一郎(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	解剖について、第1章:人体の区分と方向、第10章:骨格系:骨総論:連結・関節の種類
2	骨学各論:脊柱の構成—脊柱の機能・椎骨の基本形態、椎骨の連結・脊柱管・椎間孔・各部の椎骨:頸椎・胸椎
3	各部の椎骨:腰椎・仙骨・尾骨・仙腸関節・脊柱の靭帯、胸郭:胸骨・肋骨・胸郭の全体像と運動
4	脊柱のまとめ
5	上肢の骨 : 上肢帯の骨—鎖骨・肩甲骨
6	自由上肢骨 : 上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・中手骨・指骨
7	上肢の骨のまとめ
8	下肢帯の骨—寛骨(骨盤)・下肢帯の靭帯,自由下肢骨 : 大腿骨・脛骨・腓骨
9	足根骨・中足骨・指骨・下肢の靭帯
10	下肢の骨のまとめ
11	頭蓋骨Ⅰ: 頭蓋骨の成り立ち・内頭蓋底
12	頭蓋骨Ⅱ: 後頭蓋窩・顔面頭蓋・頭蓋骨をつくる骨
13	頭蓋骨Ⅲ: 顔面頭蓋をつくる骨・頭部の関節
14	頭蓋骨のまとめ
15	第10章:骨格系:骨学総論、骨の形状による分類
16	第1章:骨の生理学・骨の発生(軟骨内骨化・膜内骨化)
17	第1章:細胞の構造
18	第1章:細胞周期、遺伝子の働き、上皮組織分類
19	期末試験
20	定期試験の解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学2			担当者名	村上 晋介						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					40						
授業概要	本科目の目的は筋の構造、形態および機能について、患者さんに対して説明できるように内容を理解する。また、自身で専門書などで勉強する時のためにも専門知識を身につける。										
成績評価	原則として、中間試験、期末試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	村上 晋介(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	筋学総論 筋組織(平滑筋・骨格筋・心筋)
2	筋原線維(ミオシン・アクチンフィラメント)
3	上肢帯の筋
4	上腕屈筋群・伸筋群
5	前腕屈筋群
6	前腕伸筋群
7	手部の筋 手根管・伸筋支帯(第1～6トンネル)・ギオン管
8	表情筋・咀嚼筋、頸部の筋肉
9	頸部の三角(前頸三角・後頸三角)
10	中間試験
11	胸部の筋(浅胸筋・深胸筋)
12	胸部の筋(横隔膜)、腹部の筋(前腹筋)
13	腹部の筋(側腹筋・後腹筋)・会陰部の筋・鼠径靭帯と鼠径管
14	背部の筋(浅背筋・深背筋)、背部の筋(後頭下筋群)
15	下肢帯の筋
16	大腿屈筋群・伸筋群 大腿三角
17	大腿内転筋群
18	下腿屈筋群・伸筋群・腓骨筋群
19	足部 屈筋支帯・伸筋支帯・腓骨筋支帯
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学3				担当者名	篠原 卓也					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期
							40				
授業概要	<p>本科目の目的は循環器系(心臓、動静脈、リンパ系)の構造、形態、走行および機能、呼吸器系の構造、形態および機能について、患者さんに対して説明できるように内容を理解する。また、自身で専門書などで勉強する時のためにも専門知識を身につける。</p>										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	篠原 卓也(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	血管系
2	心臓①
3	心臓②
4	動脈系① 肺循環、上行大動脈、大動脈弓、頭頸部の動脈
5	動脈系② 上肢の動脈
6	動脈系③ 胸大動脈、腹大動脈、体幹の動脈
7	動脈系④ 総腸骨動脈、下肢の動脈
8	動脈系⑤ 触診
9	中間試験
10	静脈系① 体幹、頭頸部の静脈
11	静脈系② 上下肢の静脈
12	静脈系③ その他
13	胎児循環
14	リンパ系①
15	リンパ系②
16	呼吸器系① 鼻腔・副鼻腔
17	呼吸器系② 咽頭、喉頭、気管と気管支
18	呼吸器系③ 肺
19	呼吸器系④
20	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
			○									
授業科目名	解剖学4					担当者名	大庭 慎一郎					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							40					
授業概要	本科目の目的は内臓系の構造、形態および機能について、患者さんに対して説明できるように内容を理解する。また、自身で専門書などで勉強する時のためにも専門知識を身につける。											
成績評価	原則として、定期試験および小テスト、授業態度、追・再試験の結果で評価する。											
その他	大庭 慎一郎(実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	消化器1:総論
2	消化器2:口腔・舌・歯
3	消化器3:唾液腺・咽頭・食道
4	消化器4:胃
5	消化器5:小腸・大腸
6	消化器6:肝臓
7	消化器7:胆のう・膵臓・腹膜
8	泌尿器1:腎臓
9	泌尿器2:尿路
10	中間テスト 生殖器1:男性生殖器
11	生殖器2:女性生殖器
12	内分泌1:総論・下垂体前葉
13	内分泌2:下垂体中・後葉
14	内分泌3:松果体・甲状腺・副甲状腺
15	内分泌4:精巣・卵巢
16	感覚器1:総論・皮膚
17	感覚器2:味覚器・嗅覚器
18	感覚器3:平衡聴覚器、視覚器
19	期末試験
20	期末解説・解答

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学5				担当者名	篠原 卓也					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	中枢神経と末梢神経の構造と走行について習得する。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	篠原 卓也(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	神経系とは・脊髄
2	延髄・橋・中脳
3	間脳・大脳
4	大脳内の神経線維、脳室、脳脊髄液
5	伝導路①
6	伝導路②
7	伝導路③
8	末梢神経系 頸神経叢
9	腕神経叢 上肢の神経
10	中間試験
11	体幹の神経
12	腰神経叢 下肢の神経
13	仙骨神経叢 下肢の神経
14	脳神経①
15	脳神経②
16	脳神経③
17	自律神経系①
18	自律神経系②
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖学6				担当者名	大庭慎一郎、村上 晋介、篠原卓也、 黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、 山中 良太					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								40			
授業概要	1年次で学んだ解剖学に生理学的知識も含め復習する。 また国家試験過去問に触れ、問題の解き方や解説の作成方法も身に付ける。										
成績評価	出席、定期試験の結果を踏まえて評価する。 中間試験(30%)、期末試験(60%)、出席(10%)										
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中 良太(実務経験なし)										
使用教材	書籍名				著者名			出版社名			
教科書	解剖学(第2版)				(社)東洋療法学校協会編			医歯薬出版			
参考図書	生理学(第3版)				(社)東洋療法学校協会編			医歯薬出版			

回数	授業計画
1	概要、消化器系①口腔・咽頭
2	循環器系①心臓
3	人体の構成①細胞・組織
4	消化器系②食道・胃
5	人体の構成②受精と発生、人体の区分と方向
6	循環器系②動脈系
7	循環器系③静脈系
8	消化器系③小腸・大腸
9	復習とまとめ
10	中間試験、解答・解説
11	呼吸器①鼻腔・副鼻腔、咽頭
12	呼吸器②気管支・肺
13	消化器④肝・胆・膵
14	循環器系④:胎児循環・リンパ系
15	生殖器系①男性生殖器・泌尿器
16	生殖器系②女性生殖器
17	問題演習①循環器・生殖器
18	問題演習②呼吸器・消化器
19	復習とまとめ
20	期末試験/解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野									
		○										
授業科目名	生理学1			担当者名	宮原 正人							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
					40							
授業概要	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得する事を目的とする。											
成績評価	原則として、中間試験、定期試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	宮原 正人(実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学（第3版）	内田さえ・原田玲子他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	生理学の基礎：生理学の特徴、細胞の構造と機能
2	物質代謝の仕組みと移動、体液の組成と働き
3	血液：血液の組成と働き、血液凝固の仕組み
4	循環：心臓血管系、心臓
5	血管系の構造と機能
6	血圧、循環の調整
7	循環の調整
8	特殊な部位の循環、リンパ系
9	消化と吸収：消化器系の構造と機能
10	中間試験
11	口腔内の消化と胃内の消化
12	小腸内の消化と吸収
13	大腸内の消化と吸収
14	直腸・肛門と排便
15	消化管ホルモン
16	肝臓の働き
17	栄養と代謝：栄養素とエネルギー代謝、三大栄養素の働きと代謝
18	三大栄養素の働きと代謝
19	ビタミン、無機質、水
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野									
		○										
授業科目名	生理学2			担当者名	山中 良太							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得する事を目的とする。											
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。											
その他	山中 良太(実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学 (第3版)	内田さえ・原田玲子他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書	解剖生理	内田さえ・鍵谷方子 原田晃・原田彰宏 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版

回数	授業計画
1	呼吸 呼吸器系の構造と機能
2	呼吸 呼吸運動、肺機能
3	呼吸 ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調整
4	体温 体熱の産生と放散の仕組み
5	体温 体温調節の仕組み
6	排泄 腎臓の構造と機能
7	排泄 尿の組成、腎臓による体液の調整
8	排泄 腎臓による体液の調整の続き
9	排泄 蓄尿
10	排泄 排尿
11	内分泌 ホルモン的一般特徴
12	内分泌 視床下部、下垂体のホルモン
13	内分泌 甲状腺、副甲状腺のホルモン
14	内分泌 膵臓、副腎のホルモン
15	内分泌 副腎髄質、副腎皮質のホルモン
16	内分泌 精巣・卵巣のホルモン、その他のホルモン、神経によるホルモン調節のまとめ
17	生殖・成長と老化 男性と女性の生殖器の構造と機能
18	生殖・成長と老化 成長・老化
19	まとめ
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	生理学3				担当者名	山中 良太					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	第10章 神経～第12章 運動にかけてを学習する。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	山中 良太(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学 (第3版)	内田さえ・原田玲子他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書	解剖生理	内田さえ・鍵谷方子 原田晃・原田彰宏 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版

回数	授業計画
1	第10章 神経;ニューロンの構造と働き
2	;ニューロンの構造と働き②
3	;中枢神経系
4	;中枢神経系②
5	;中枢神経系③
6	;末梢神経系
7	;末梢神経系②
8	;末梢神経系③
9	;末梢神経系④
10	中間試験
11	第11章 筋;構造と働き～筋収縮の仕組み
12	;エネルギー代謝～心筋と平滑筋
13	第12章 運動;運動の調節①
14	;運動の調節②
15	;運動の調節③
16	;運動の調節④
17	;錐体路と錐体外路
18	;発声と言語
19	期末試験
20	試験解説・問題演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	生理学4				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	第13章 感覚～第15章 身体活動の協調 にかけてを学習する。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	黒川 典子(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学 (第3版)	内田さえ・原田玲子他 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書	解剖生理	内田さえ・鍵谷方子 原田晃・原田彰宏 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版

回数	授業計画
1	第13章 感覚 ;感覚の分類と一般～内臓感覚
2	;痛覚
3	;痛覚②
4	;痛覚③
5	;特殊感覚
6	;特殊感覚②
7	;特殊感覚③
8	;特殊感覚④
9	まとめと復習
10	中間試験
11	第14章 生体の防御機構;生体の防御機構
12	;生体の防御機構②
13	;生体の防御機構③
14	;アレルギー反応
15	;アレルギー反応②
16	第15章 身体活動の協調;生体の適応
17	;恒常性維持
18	;バイオリズム
19	期末試験
20	試験解説・問題演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	運動学					担当者名	宮原 正人				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	<p>運動学人間の身体運動を科学的に研究する学問分野である。運動障害をもつ患者の治療にあたる医療従事者は、治療・訓練を行う際に、その前提に正常運動とはいかなるものかを理解しておく必要がある。そこで、1年次に学習した解剖学、生理学の基礎知識を基に、特に運動系(人間の運動にかかわる身体と構造)について総合的な理解を深めることを教育目標とする。</p>										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	宮原 正人(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書	配布資料		

回数	授業計画
1	運動学総論
2	上肢の運動①
3	上肢の運動②
4	上肢の運動③
5	上肢の運動④
6	運動器の構造と機能①
7	運動器の構造と機能②
8	神経の構造と機能①
9	神経の構造と機能②
10	中間試験
11	下肢の運動①
12	下肢の運動②
13	下肢の運動③
14	体幹の運動①
15	体幹の運動②
16	姿勢・歩行
17	運動感覚・反射・随意運動
18	運動発達・運動学習
19	期末試験
20	期末試験解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	病理学概論				担当者名	皆川 剛					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、小テスト、中間試験、期末試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	皆川 剛(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	病理学概論 第2版	滝澤 登一郎・畠山 茂 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	総論 + 病因① 内因
2	病因② 外因
3	循環障害① 充血・うっ血・出血・貧血
4	充血、うっ血
5	出血、血栓症
6	塞栓、梗塞、水腫(浮腫)
7	ショック
8	循環障害② 塞栓症・血栓症・梗塞・水腫
9	退行性病変
10	進行性病変①
11	中間試験 + 進行性病変②
12	炎症① 総論
13	炎症② 分類
14	腫瘍① 総論
15	腫瘍② 分類
16	アレルギー
17	免疫異常
18	遺伝子異常
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学総論1				担当者名	村上 晋介					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学で用いられる診察法と検査法について理解することを目的とする。 また症状別の病態についても習得していく。										
成績評価	中間試験、期末試験に出席状況、授業態度等を考慮し、総合的に評価する。										
その他	村上 晋介(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学総論 第2版	奈良 信夫 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法①(医療面接・身体診察) 医療面接
2	第2章 診察の方法②(医療面接・身体診察) 視診・触診
3	第2章 診察の方法③(医療面接・身体診察) 打診・聴診
4	第2章 診察の方法④(医療面接・身体診察) まとめ
5	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察① 体温・脈拍
6	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察② 血圧・呼吸
7	第3章 生命徴候(バイタルサイン)の診察③ まとめ
8	第4章 全身の診察① (顔貌・精神状態・言語・身体計測)
9	中間試験 第4章 全身の診察② (体型・栄養状態)
10	第4章 全身の診察③ (姿勢と体位・歩行)
11	第4章 全身の診察④ (皮膚状態・爪の状態・リンパ節)
12	第4章 全身の診察⑤ まとめ
13	第5章 局所の診察① (頭部・顔面・眼)
14	第5章 局所の診察② (鼻・耳・口腔・頸部)
15	第5章 局所の診察③ (胸部・乳房・肺・心臓)
16	第5章 局所の診察④ (腹部・背部・四肢の変形)
17	第5章 局所の診察⑤ まとめ
18	第6章 神経系の診察① (感覚検査法・反射検査)
19	第6章 神経系の診察② (脳神経系の検査・髄膜刺激症状)
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学総論2				担当者名	村上 晋介					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学で用いられる診察法と検査法について理解することを目的とする。 また症状別の病態についても習得していく。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	村上 晋介(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学総論 第2版	奈良 信夫 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第7章 運動機能検査(運動麻痺・筋肉の異常・不随意運動)
2	第7章 運動機能検査(協調運動・起立と歩行)
3	第7章 運動機能検査(関節可動域検査・徒手筋力検査・日常生活動作・整形外科的検査法)
4	第7章 運動機能検査(関節可動域検査・徒手筋力検査・日常生活動作・整形外科的検査法)
5	第8章 その他の診察
6	第9章 臨床検査法(一般検査)
7	第9章 臨床検査法(血液生化学検査)
8	第9章 臨床検査法(生理学的検査および画像診断の概要)
9	1～8回講義の総復習
10	中間試験
11	第10章 おもな症状の診察法①
12	第10章 おもな症状の診察法②
13	第10章 おもな症状の診察法③
14	第10章 おもな症状の診察法④
15	第10章 おもな症状の診察法⑤
16	第10章 おもな症状の診察法⑥
17	第10章 おもな症状の診察法⑦
18	第11章 治療学 ・ 第12章 臨床心理
19	11～18回講義の総復習
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論1				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	黒川 典子(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書	解剖生理	内田さえ・鍵谷方子 原田晃・原田彰宏 著 東洋療法学校協会編	医歯薬出版

回数	授業計画
1	第1章 感染症 1
2	第1章 感染症 2
3	第1章 感染症 3
4	第1章 感染症 4
5	第1章 感染症 5
6	第2章 消化管疾患 1
7	第2章 消化管疾患 2
8	第2章 消化管疾患 3
9	第2章 消化管疾患 4
10	中間試験
11	第2章 消化管疾患 5
12	第2章 消化管疾患 6
13	第2章 消化管疾患 7
14	第3章 肝・胆・膵疾患 1
15	第3章 肝・胆・膵疾患 2
16	第3章 肝・胆・膵疾患 3
17	第3章 肝・胆・膵疾患 4
18	第3章 肝・胆・膵疾患 5
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論2				担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、授業態度、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	宮原 正人(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 (社)東洋療法学校協会 著 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	呼吸器疾患1
2	呼吸器疾患2
3	呼吸器疾患3
4	血液・造血疾患1
5	血液・造血疾患2
6	血液・造血疾患3
7	神経疾患1
8	神経疾患2
9	神経疾患3
10	中間試験・解答 解説
11	神経疾患4
12	神経疾患5
13	神経疾患6
14	その他の領域1
15	その他の領域2
16	その他の領域3
17	その他の領域4
18	その他の領域5
19	期末試験
20	期末試験解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論3				担当者名	皆川 剛					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	現代医学的観点からそれぞれの器官の疾患の病因、症状、疫学、検査、治療法を理解することを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験(中間試験2回、期末試験1回の計3回実施する)、追・再試験の結果、及び出席により評価する。										
その他	皆川 剛(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	第5章 腎・尿器疾患 1
2	第5章 腎・尿器疾患 2
3	第5章 腎・尿器疾患 3
4	第5章 腎・尿器疾患 4
5	中間試験(1回目) 第6章 内分泌疾患 1
6	第6章 内分泌疾患 2
7	第6章 内分泌疾患 3
8	第6章 内分泌疾患 4
9	第7章 代謝・栄養疾患 1
10	第7章 代謝・栄養疾患 2
11	中間試験(2回目) 第9章 循環器疾患 1
12	第9章 循環器疾患 2
13	第9章 循環器疾患 3
14	第9章 循環器疾患 4
15	第9章 循環器疾患 5
16	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 1
17	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 2
18	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 3
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	臨床医学各論4				担当者名	大庭 慎一郎					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											40
授業概要	臨床医学各論1～3の内容を詳細に確認し、総復習を行う。										
成績評価	原則として、小テスト、定期試験および追・再試験の結果により評価する。										
その他	大庭 慎一郎(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	臨床医学各論 第2版	奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	総論1、総論2
2	整形外科疾患、関節疾患
3	骨代謝性疾患、骨腫瘍
4	筋疾患、腱疾患
5	形態異常
6	脊椎疾患1、脊椎疾患2、脊髄損傷
7	外傷1、外傷2
8	その他の整形外科疾患
9	中間試験
10	感染症
11	消化管疾患、肝・胆・膵疾患
12	呼吸器疾患、腎・尿器疾患
13	内分泌疾患、代謝・栄養疾患
14	循環器疾患
15	血液・造血器疾患、神経疾患
16	リウマチ性疾患・膠原病
17	一般外科、麻酔科
18	婦人科疾患、皮膚科疾患、精神科疾患
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	リハビリテーション医学					担当者名	篠原 卓也				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	リハビリテーションの基礎のうち最も大切な障害学と運動学を習得し、正しい知識を深めることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	篠原 卓也(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハビリテーション医学 第4版	土肥 信之 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書	配布資料		

回数	授業計画
1	リハビリテーションと障害
2	リハビリテーションと医学と医療
3	障害の評価①
4	障害の評価②
5	脳卒中①
6	脳卒中②
7	脊髄損傷①
8	脊髄損傷②
9	切断①
10	中間試験 解答・解説
11	切断②
12	小児疾患
13	パーキンソン病
14	関節リウマチ
15	変形性関節症
16	呼吸器疾患
17	心疾患
18	運動学の基礎
19	期末試験
20	期末試験の解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	
			○			
授業科目名	医療概論				担当者名	黒川 典子
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次 2年次 3年次
単位数	2				授業時間数	前期 後期 前期 後期 前期 後期 40
授業概要	医療従事者として必要な医学の歴史のほか、我が国の医療福祉のシステムについて学習する。 また医療従事者として必要な倫理観、バイオエシックスに関連するトピックに触れる。					
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。					
その他	黒川 典子(実務経験なし)					

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	社会あはき学(第3版)、医療概論(第1版)	中川米造 著 (公社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社

回数	授業計画
1	現代の医学と医療
2	現代の医学と医療②
3	医療制度
4	医療制度②
5	医療制度③
6	社会保障制度
7	社会保障制度②
8	社会保障制度③
9	復習とまとめ
10	中間試験
11	医療従事者の倫理
12	バイオエシックス
13	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識
14	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識②
15	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識③
16	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識④
17	問題演習
18	問題演習②
19	期末試験
20	期末試験の解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	衛生学公衆衛生学				担当者名	大庭 慎一郎					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2					前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	人体と環境との繋がりを学び、医療に必要な衛生学的知識を習得させ、身につけることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果、及び授業態度で評価する。										
その他	大庭 慎一郎(実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	衛生学・公衆衛生学	鈴木庄亮・他著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	衛生学について・第1章:衛生学とは
2	第2章:健康の概念
3	第3章:ライフスタイルと健康
4	第4章:環境と健康:日常生活環境・環境問題1
5	第4章:環境問題2
6	第5章:産業保健
7	第6章:精神保健の意義、精神の健康、精神障害の現状と分類 I
8	第7章:母子保健
9	第8章:老人・高齢者保健の意義・加齢と老化・生活習慣病の特徴と対策
10	第8章:老人福祉対策、介護保険、難病対策の現状
11	第9章:感染症の意義と種類
12	第9章:発生要因・感染症
13	第10章:消毒法一般、消毒の種類
14	第11章:疫学
15	第12章:保健統計①
16	第12章:保健統計②
17	第12章:保健統計③
18	国際保健
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	東洋医学概論1				担当者名	馬男木 亨					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					40						
授業概要	鍼灸治療に必要な基本的東洋医学の理論を学び、人体のとらえ方、疾病観について理解することを目的とする。										
成績評価	定期試験の成績および出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。										
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	東洋医学について
2	陰陽論・五行論①
3	陰陽論・五行論②
4	陰陽論・五行論③
5	精の生理・病理
6	気の生理・病理①
7	気の生理・病理②
8	気の生理・病理③
9	東洋医学の改革
10	中間試験 解答・解説
11	経絡について
12	血の生理・病理①
13	血の生理・病理②
14	津液の生理・病理①
15	津液の生理・病理②
16	五神・情志について
17	陰虚・陰盛・陽虚・陽盛①
18	陰虚・陰盛・陽虚・陽盛②
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	東洋医学概論2					担当者名	馬男木 亨					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	鍼灸治療に必要な基本的東洋医学の理論を学び、人体のとらえ方、疾病観について理解することを目的とする。											
成績評価	定期試験の成績および出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。											
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社
参考図書	中医学の基礎	有馬直樹/兵頭昭 日中共同編集	東洋学術出版社

回数	授業計画
1	蔵象学説(肝、胆、心、小腸の生理)
2	蔵象学説(脾、胃、肺、大腸の生理)
3	蔵象学説(腎、膀胱、三焦の生理)
4	蔵象学説(肝、胆の病証)
5	蔵象学説(心、小腸の病証)
6	蔵象学説(脾、胃の病証)
7	蔵象学説(肺、大腸の病証)
8	蔵象学説(腎の病証)
9	蔵象学説(膀胱、三焦の病証)
10	中間試験 解答・解説
11	五臓の相互関係①
12	五臓の相互関係②
13	五臓の相互関係③
14	五臓の関連領域の気機①
15	五臓の関連領域の気機②
16	蔵象学説まとめ
17	病因病機①
18	病因病機②
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	経絡経穴概論1				担当者名	篠原 卓也					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
					40						
授業概要	東洋医学の診断・治療に深く関わる経絡と経穴の理解することを目的とする。 また、経穴と局所解剖の関連性を理解する。										
成績評価	定期試験及び小テスト、追・再試の結果で評価する。										
その他	篠原 卓也(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論 第2版	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	総論①
2	総論②
3	総論③
4	督脈①
5	督脈②
6	督脈③
7	任脈①
8	任脈②
9	手の太陰肺経
10	中間試験
11	手の陽明大腸経①
12	手の陽明大腸経②
13	足の陽明胃経①
14	足の陽明胃経②
15	足の陽明胃経③
16	足の太陰脾経①
17	足の太陰脾経②
18	手の少陰心経
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	経絡経穴概論2				担当者名	松井 恵理					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							40				
授業概要	東洋医学の診断・治療に深く関わる経絡と経穴の理解することを目的とする。										
成績評価	定期試験及び小テスト、追・再試の結果で評価する。										
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論 第2版	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	手の太陽小腸経①
2	手の太陽小腸経②
3	足の太陽膀胱経①
4	足の太陽膀胱経②
5	足の太陽膀胱経③
6	足の太陽膀胱経④
7	足の少陰腎経①
8	足の少陰腎経②
9	手の厥陰心包経
10	中間試験・解答解説
11	手の少陽三焦経①
12	手の少陽三焦経②
13	足の少陽胆経①
14	足の少陽胆経②
15	足の少陽胆経③
16	足の少陽胆経④
17	足の厥陰肝経①
18	足の厥陰肝経②
19	期末試験
20	期末試験の解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
				○							
授業科目名	経絡経穴概論3				担当者名	松井 恵理					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	東洋医学の診断・治療に深く関わる経絡と経穴の理解することを目的とする。										
成績評価	定期試験及び小テスト、追・再試の結果で評価する。										
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論 第2版	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	奇経八脈
2	奇穴①
3	奇穴②
4	経絡の流注
5	五要穴まとめ①
6	五要穴まとめ②
7	五行穴まとめ①
8	五行穴まとめ②
9	その他の要穴まとめ
10	中間試験、1～9のまとめ
11	頭頸部の経穴のまとめ①
12	頭頸部の経穴のまとめ②
13	肩・上肢・腹部の経穴のまとめ①
14	肩・上肢・腹部の経穴のまとめ②
15	肩・上肢・腹部の経穴のまとめ③
16	下肢・背部の経穴のまとめ①
17	下肢・背部の経穴のまとめ②
18	下肢・背部の経穴のまとめ③
19	期末試験
20	期末試験の解答解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野								
					○								
授業科目名	東洋医学診断論1					担当者名		松井 恵理					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
授業概要	東洋医学の診察法である四診について、また、治療法である治則・治法について学び、東洋医学的な鑑別診断に用いる知識を学ぶ。												
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。												
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においては師きゅう師として勤務)												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 東洋医学概論	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	第4章 四診 望診①(神・五色診・形・態)
2	第4章 四診 望診②(舌診)
3	第4章 四診 望診③(舌診)
4	第4章 四診 聞診(声診・気味)
5	第4章 四診 問診①(問診の進め方・主訴)
6	第4章 四診 問診②(基本的問診事項①)
7	第4章 四診 問診③(基本的問診事項②)
8	第4章 四診 問診④(その他の問診事項①)
9	1～8回講義の総復習
10	中間試験
11	第4章 四診 切診①(腹診)
12	第4章 四診 切診②(脈診:比較脈診・六部定位脈診①)
13	第4章 四診 切診③(脈診:比較脈診・六部定位脈診②)
14	第5章 弁証論治 弁証①(八綱弁証・気血津液弁証・臟腑弁証・経絡弁証・六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁証)
15	第5章 弁証論治 弁証②(八綱弁証・気血津液弁証・臟腑弁証・経絡弁証・六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁証)
16	第5章 弁証論治 論治①(治則・治法)
17	第5章 弁証論治 論治②(鍼灸治療:五刺・九刺・十二刺)
18	第5章 弁証論治 論治③(鍼灸治療:五刺・九刺・十二刺)
19	11～18回講義の総復習
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			○					
授業科目名	東洋医学診断論2					担当者名	村上 晋介				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	様々な愁訴に対して、西洋医学的な病態把握と治療だけでなく、東洋医学的な病態把握と治療ができるように指導する。										
成績評価	定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	村上 晋介(鍼灸施術所においては師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	南江堂
参考図書			

回数	授業計画
1	肝系統 眼精疲労(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
2	肝系統 気分障害(うつ状態)(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
3	肝系統 めまい(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
4	心系統 動悸・息切れ(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
5	心系統 血圧異常(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
6	心系統 睡眠障害(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
7	脾系統 食欲不振(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
8	脾系統 肥満(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
9	脾系統 やせ(るい瘦)(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
10	中間試験
11	脾系統 悪心・嘔吐(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
12	脾系統 便秘・下痢(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
13	脾系統 歯痛(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
14	肺系統 咳嗽と喀痰(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
15	肺系統 呼吸困難(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
16	肺系統 鼻閉・鼻汁(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
17	腎系統 脱毛症(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
18	腎系統 耳鳴り・難聴(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
19	腎系統 排尿障害・ED(西洋医学的・東洋医学的に基づく病態把握と治療)
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	東洋医学臨床論1					担当者名		松井 恵理			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	患者さんの主訴に対する西洋医学的、東洋医学的治療法を学ぶ。										
成績評価	小テスト、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	腰部の解剖 股関節の解剖
2	腰下肢痛①
3	腰下肢痛② 神経学的診断
4	腰下肢痛③ 神経学的診断
5	股関節痛
6	膝の解剖
7	膝痛
8	下肢の疾患①
9	下肢の疾患②
10	中間試験 解答・解説
11	頸部の解剖
12	頸肩腕痛①
13	頸肩腕痛② 神経学的診断
14	頸肩腕痛③ 神経学的診断
15	胸郭出口症候群
16	肩関節の解剖 肩関節疾患①
17	上肢の解剖 上腕二頭筋長頭腱炎
18	絞扼神経障害(橈骨神経・正中神経・尺骨神経)
19	期末試験
20	解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野				
					○				
授業科目名	東洋医学臨床論2				担当者名	馬男木 亨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
授業概要	東洋医学概論で学んだ概念を元に、臨床上遭遇しやすい疾患・症候についての概要と治療法を理解することを目的とする。 また治療の適不適の鑑別を判断し適切な鍼灸治療が行えるように、東洋医学的、西洋医学的の両観点から疾患の知識を深める。								
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。								
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	顔面神経麻痺 ベル麻痺・ハント症候群
2	顔面神経麻痺 聴神経鞘腫・後遺症
3	頭痛
4	顔面痛・胸痛
5	女性特有症候 月経困難症
6	女性特有症候 月経前症候群
7	女性特有疾患 性器出血・帯下
8	女性特有疾患 不妊症・つわり
9	女性特有疾患 骨盤位・乳汁分泌不全
10	中間試験 解答・解説
11	小児特有疾患 疳の虫
12	小児特有疾患 夜尿症
13	小児特有疾患 小児喘息
14	老年特有疾患 ロコモ・サルコペニア・フレイル
15	老年特有疾患 認知症
16	歩行異常 片麻痺・PD
17	口喝 糖尿病・シェーグレン症候群
18	膠原病 全身性強皮症
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	東洋医学臨床論3				担当者名	馬男木 亨						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次	2年次		3年次		
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	東洋医学概論で学んだ概念を元に、臨床上遭遇しやすい疾患・症候についての概要と治療法を理解することを目的とする。 また治療の適不適の鑑別を判断し適切な鍼灸治療が行えるように、東洋医学的、西洋医学的の両観点から疾患の知識を深める。											
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	脱毛症
2	耳鳴り・難聴
3	排尿障害・勃起障害
4	頸肩腕痛
5	腰下肢痛
6	肩痛
7	上肢スポーツ障害
8	下肢スポーツ障害
9	現代医学的治療の考え方
10	中間試験 解答・解説
11	臨床応用 陰陽論・五行論
12	臨床応用 臓腑の生理作用
13	臨床応用 臓腑の病証
14	臨床応用 舌所見
15	臨床応用 脈所見
16	臨床応用 気血津液弁証
17	臨床応用 臓腑弁証
18	臨床応用 治法・治則
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	鍼灸理論1					担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	医療の中で求められる鍼灸治療の基本知識や生体反応について理解し、東洋医学と西洋医学の相互理解を深めることを目的とする。 またここでは鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生処置、リスク管理について学ぶ。											
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。											
その他	宮原 正人(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう理論 第3版	教科書執筆委員会 著	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識(鍼用具・古代九鍼)①
2	第2章 鍼の基礎知識(鍼用具・古代九鍼)②
3	第2章 鍼の基礎知識(鍼用具・古代九鍼)③
4	第3章 刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式・刺鍼の術式)①
5	第3章 刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式・刺鍼の術式)②
6	第3章 刺鍼の方式と術式(刺鍼の方式・刺鍼の術式)③
7	第4章 特殊鍼法(小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼・低周波鍼通電・その他)①
8	第4章 特殊鍼法(小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼・低周波鍼通電・その他)②
9	1~8回講義の総復習
10	中間試験
11	第5章 灸の基礎知識(灸の材料・線香)①
12	第5章 灸の基礎知識(灸の材料・線香)②
13	第6章 灸術の種類(有痕灸・無痕灸)①
14	第6章 灸術の種類(有痕灸・無痕灸)②
15	第7章 リスク管理(安全対策の基本・感染対策・有害事象の種類と対処法)①
16	第7章 リスク管理(安全対策の基本・感染対策・有害事象の種類と対処法)②
17	第7章 リスク管理(安全対策の基本・感染対策・有害事象の種類と対処法)③
18	第7章 リスク管理(安全対策の基本・感染対策・有害事象の種類と対処法)④
19	11~18回講義の総復習
20	期末試験・解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		〇						
授業科目名	鍼灸理論2				担当者名	黒川 典子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次			
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	はり師きゅう師として業務に従事するうえで、理解しておくべき法令を学ぶ。 鍼灸臨床現場で必須の知識・リスクへの対処などを改めて学ぶ。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	黒川 典子(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう理論(第1版)	教科書執筆小委員会著 (公社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書	はりきゅう理論(第3版) 生理学(第3版)	教科書執筆小委員会著 (公社)東洋療法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	第9章 体性感覚について
2	痛みについて
3	鍼鎮痛
4	鍼鎮痛②
5	鍼鎮痛③
6	鍼鎮痛④
7	第10章 循環系と鍼灸
8	運動系と鍼灸
9	消化器系と鍼灸
10	中間試験
11	第10章 リラクゼーションと鍼灸
12	生体防御と鍼灸
13	生体防御と鍼灸②
14	生体防御と鍼灸③
15	生体防御と鍼灸④
16	第11章 関連学説
17	関連学説②
18	問題演習
19	期末試験
20	期末試験の解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	社会鍼灸学					担当者名	松井 恵理					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	はり師きゅう師として業務に従事するうえで、理解しておくべき法令を学ぶ。 鍼灸臨床現場で必須の知識・リスクへの対処などを改めて学ぶ。											
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。											
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	関係法規(第7版)	教科書執筆小委員会 著 (公社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社
参考図書	社会あはき学(第3版)、医療概論(第1版)	中川米造 著 (公社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社

回数	授業計画	
1	第1章 あはき法	免許と試験、業務、学校、養成施設、指定試験(登録機関)、審議会及び試験委員、罰則
2	第2章 関係法規	医療法規と医療制度、医療法
3		医師法、その他の医療従事者に関する法律
4		薬事法、衛生関係法規
5		衛生関係法規②
6		衛生関係法規③
7		社会福祉関係法規
8		社会保険関係法規
9	中間試験	
10	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識①;第31回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
11	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識②;第30回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
12	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識③;第29回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
13	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識④;第28回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
14	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識⑤;第27回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
15	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識⑥;第26回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
16	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識⑦;第25回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
17	鍼灸臨床現場で求められる基礎知識⑧;第24回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
18	問題演習①;第23回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
19	問題演習②;第22回	国家試験問題(解剖生理学・内臓) 解説
20	期末試験	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野				
					○				
授業科目名	基礎実技1				担当者名	山中 良太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期
						40			
授業概要	鍼に関する必要な基礎知識・基本手技の習得ができるようになるための授業を行う。 鍼施術を行う際に必要な基本手技を習得し、身体各部に対して衛生的で安全な鍼施術が行えるようにする。また過誤や副作用についてしっかりと意識付ける。								
成績評価	平常点(30%)：実技室の使用ルールに従った減点方式で評価する。 定期試験(70%)：中間試験および期末試験の平均をとり、7割換算する。								
その他	山中 良太(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう理論	教科書執筆委員会 著 (社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社
参考図書	はりきゅう実技 基礎編 新版 経絡経穴概論(第2版)	教科書執筆委員会 著 (社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社

回数	授業計画
1	鍼の基礎知識・道具と確認・準備について
2	刺鍼手順
3	感染症対策、挿管から刺入まで①
4	感染症対策、挿管から刺入まで②
5	感染症対策、挿管から刺入まで③
6	刺鍼の術式①
7	刺鍼の術式②
8	刺鍼の術式③
9	試験前の復習とまとめ
10	中間試験
11	施術前の衛生操作
12	自己刺入
13	自己刺入(下腿内側)
14	自己刺入(大腿前面)
15	タオルワークと体位変換
16	対人刺入
17	対人刺入(下腿)
18	対人刺入(前腕)
19	試験前の復習とまとめ
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	基礎実技2			担当者名	黒川 典子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					40						
授業概要	基礎的な施灸手技を安全かつスムーズに行えるようにする。 米粒大、半米粒大以外の大きさを修得し、熱さをコントロールできるようにする。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	黒川 典子(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	灸とは何か
2	施灸練習(板上施灸)
3	施灸練習(板上施灸)
4	施灸練習(板上・紙上施灸)
5	施灸練習(板上・紙上施灸)
6	施灸練習(板上・紙上施灸)
7	施灸練習(板上・紙上施灸)
8	施灸練習(板上・紙上施灸)
9	中間試験
10	中間試験
11	施灸を行うにあたっての衛生操作の基本
12	施灸練習(自己施灸)
13	施灸練習(自己施灸)
14	施灸練習(対人施灸)
15	施灸練習(対人施灸)
16	施灸練習(対人施灸)
17	施灸練習(対人施灸)
18	施灸練習(対人施灸)
19	期末試験
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	基礎実技3			担当者名	山中 良太						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数						40					
授業概要	鍼に関する必要な基礎知識・基本手技の習得ができるようになるための授業を行う。 鍼施術を行う際に必要な基本手技を習得し、身体各部に対して衛生的で安全な鍼施術が行えるようにする。また過誤や副作用についてしっかりと意識付ける。										
成績評価	平常点(30%)：実技室の使用ルールに従った減点方式で評価する。 定期試験(70%)：中間試験および期末試験の平均をとり、7割換算する。										
その他	山中 良太(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう理論	教科書執筆委員会 著 (社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社
参考図書	はりきゅう実技 基礎編 新版 経絡経穴概論(第2版)	教科書執筆委員会 著 (社)東洋療法学校協会 編	医道の日本社

回数	授業計画
1	施鍼の基本的な流れ
2	対人刺鍼(下肢)①
3	対人刺鍼(下肢)②
4	対人刺鍼(上肢)①
5	対人刺鍼(上肢)②
6	対人刺鍼(腰背部)①
7	対人刺鍼(腰背部)②
8	対人刺鍼(腰背部)③
9	試験前の復習とまとめ
10	中間試験
11	対人刺鍼(殿部)
12	対人刺鍼(頭部・顔面部)
13	体位変換を伴う施鍼①
14	体位変換を伴う施鍼②
15	指サックを使った施鍼①
16	指サックを使った施鍼②
17	グローブを使った施鍼①
18	グローブを使った施鍼②
19	試験前の復習とまとめ
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	基礎実技4					担当者名	黒川 典子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数							40				
授業概要	衛生操作を行いながらの施灸の流れを修得する。 透熱灸と知熱灸の刺激量が調節できるようになることを目的とする。										
成績評価	出席点、定期試験の結果で評価する。										
その他	黒川 典子(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	複数個所への連続施灸の流れを確認する。
2	上肢への施灸
3	上肢への施灸
4	上肢への施灸
5	上肢への施灸
6	下肢への施灸
7	下肢への施灸
8	下肢への施灸
9	中間試験
10	中間試験
11	腹部への施灸
12	腹部への施灸
13	腰背部への施灸
14	腰背部への施灸
15	頭部への施灸
16	頭部への施灸
17	特殊灸法
18	特殊灸法
19	期末試験
20	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	応用実技1					担当者名	村上 晋介				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	<p>伝統医学における鍼灸臨床は、四診法(望・聞・問・切診)を行い、弁証論治に基づき処方と配穴を行う。そこで、四診法を体得し、弁証論治を習得する。</p>										
成績評価	<p>期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。</p>										
その他	<p>村上 晋介(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)</p>										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	ガイダンス 望診(顔面診)
2	望診(舌診)①
3	望診(舌診)②
4	聞診
5	問診①
6	問診②
7	切診①(脈診)
8	切診②(脈診)
9	切診③(脈診)
10	切診④(脈診)
11	切診(腹診)①
12	切診(腹診)②
13	切診(背診)①
14	切診(背診)②
15	切診(切経、切穴)
16	四診法まとめ
17	四診法から弁証論治①
18	四診法から弁証論治②
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			○					
授業科目名	応用実技2					担当者名		馬男木 亨			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	<p>日常で障害されやすい筋肉の触診と、その筋に対して正確でスムーズな施術を体得する。 その中で、鍼通電療法(パルス)を体得する。</p>										
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においては師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	図解 整形外科学検査法		

回数	授業計画
1	ガイダンス 低周波鍼通電療法の使い方
2	下腿部の触診
3	下腿部(伸筋群)のパルス①(前脛骨筋、長指伸筋、腓腹筋など)
4	下腿部(屈筋群)のパルス②(腓腹筋、長趾屈筋、後脛骨筋など)
5	大腿部の触診
6	大腿部のパルス(大腿四頭筋、大腿二頭筋など)
7	前腕部の触診
8	前腕部(伸筋群)のパルス①(橈側手根伸筋、総指伸筋など)
9	前腕部(屈筋群)のパルス②(橈側手根屈筋、腕橈骨筋など)
10	中間試験
11	上腕部の触診
12	上腕部のパルス(上腕二頭筋、上腕三頭筋、三角筋など)
13	肩甲部の触診
14	肩甲部のパルス(棘上筋、棘下筋、肩甲挙筋など)
15	腰背部の触診
16	腰背部のパルス(僧帽筋、脊柱起立筋、腰方形筋など)
17	頭部、頸部の触診
18	頭部、頸部のパルス(板状筋、斜角筋、胸鎖乳突筋など)
19	期末試験
20	解答解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技3					担当者名		松井 恵理				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	鍼灸臨床でよく用いられる経穴のスムーズな取穴と施術を体得する。											
成績評価	配点の割合は、中間試験5割、期末試験5割で行う。 取穴実技、小テスト、 平常点(授業に対する姿勢)・出席点などで総合的に評価する。											
その他	松井 恵理(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	新版 経絡経穴概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	授業の説明、試験の説明、骨度寸法
2	手の太陰肺経、手の陽明大腸経の取穴
3	手の少陰心経、手の太陽小腸経の取穴
4	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の取穴
5	背部俞穴の取穴①
6	背部俞穴の取穴②
7	手の三陰経で取穴
8	手の三陽経で取穴
9	中間試験
10	中間試験／解説
11	足の陽明胃経、足の太陰脾経の取穴
12	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経の取穴
13	足の少陽胆経、足の厥陰肝経の取穴
14	募穴の取穴①
15	募穴の取穴②
16	足の三陰経で取穴
17	足の三陽経で取穴
18	取穴練習
19	期末試験
20	期末試験／解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	応用実技4				担当者名	大庭 慎一郎					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								40			
授業概要	現代医学的に病態を把握する中で、必ず必要となる検査法を習得する。										
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	大庭 慎一郎(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	頸部と上肢の検査(頸椎症)
2	頸部と上肢の検査(腱板損傷)
3	頸部と上肢の検査(上腕二頭筋長頭腱炎)
4	頸部と上肢の検査(胸郭出口症候群)
5	頸部と上肢の検査(上腕骨外側上顆炎)
6	頸部と上肢の検査(上肢伸張反射)
7	病的反射
8	頸部と上肢の検査まとめ
9	中間試験
10	中間試験解説
11	腰部と下肢の検査(椎間関節性腰痛)
12	腰部と下肢の検査(変形性関節症)
13	腰部と下肢の検査(半月板損傷)
14	腰部と下肢の検査(十字靭帯損傷)
15	腰部と下肢の検査(側副靭帯損傷)
16	腰部と下肢の検査(坐骨神経痛)
17	関節可動域測定
18	腰部と下肢の検査まとめ
19	期末試験
20	期末試験解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技5					担当者名		大庭 慎一郎				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	ここでは基礎で学んだ技術に身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸が行えることを目的とする。 また疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。											
成績評価	実技小テストの点数と、期末試験の点数に平常点として出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。											
その他	大庭 慎一郎(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書	医療面接	丹澤章八	医道の日本社

回数	授業計画
1	膝：検査法①：OAに対する検査法 ②：外傷に対する検査法
2	膝：ROM測定練習
3	膝：ROM・検査復習 刺鍼・施灸 1
4	膝：ROM・検査復習 刺鍼・施灸 2
5	足関節：検査法①捻挫に対する検査法
6	足関節：ROM足関節～足趾測定練習 1
7	足関節：ROM・検査復習 刺鍼・施灸 1
8	膝・足関節：ROM・検査 刺鍼・施灸まとめ
9	刺鍼・施灸練習①
10	刺鍼・施灸練習②
11	腰下肢・殿部：ROM測定練習 胸腰部、股関節 検査法 1
12	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 検査法 2
13	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 検査法 3
14	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 刺鍼・施灸 2
15	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 刺鍼・施灸 3
16	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 股関節周囲への刺鍼 1
17	腰下肢・殿部：ROM復習・検査法復習 坐骨神経痛への刺鍼 股関節周囲への刺鍼 2
18	腰下肢・殿部：ROM・検査法 まとめ
19	期末試験 検査・鍼練習
20	期末試験 /解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	応用実技6					担当者名		篠原 卓也				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	ここでは基礎で学んだ技術に身体の各部位別に適切な刺鍼・施灸が行えることを目的とする。 また疾患の鑑別に必要な検査法を習得することを目的とする。											
成績評価	中間試験、期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。											
その他	篠原 卓也(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう実技 基礎編	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書	図解 整形外科学検査法	新関真人	医道の日本

回数	授業計画
1	肩関節:検査法・関節可動域検査 1
2	肩関節:検査法・関節可動域検査 2
3	肩関節:刺鍼・施灸 1
4	肩関節:刺鍼・施灸 2
5	肩関節:刺鍼・施灸 3
6	頸部:検査法・関節可動域検査 1
7	頸部:検査法・関節可動域検査 2
8	頸部:刺鍼・施灸
9	中間試験
10	中間試験解説
11	胸郭:検査法 1
12	胸郭:刺鍼・施灸 1
13	胸郭:刺鍼・施灸 2
14	胸郭:刺鍼・施灸 3
15	自由上肢:検査法 1
16	自由上肢:検査法 2
17	自由上肢:刺鍼・施灸 1
18	自由上肢:刺鍼・施灸 2
19	期末試験
20	総復習、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野								
					○								
授業科目名	臨床実技1					担当者名		山野 州康					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	40	
単位数													
授業概要	中医学と経絡治療を基盤とした伝統医学的治療の考え方、治療法を体得する。												
成績評価	期末試験の点数に平常点として出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。												
その他	山野 州康(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	背候診
2	腹診、脈診
3	経絡治療①概要
4	経絡治療②基本治療
5	経絡治療③超浅刺
6	経絡テスト①概要
7	経絡テスト②頸部、腰部
8	経絡テスト③上肢
9	経絡テスト④下肢
10	中国鍼刺入練習①後頭部、頸部の排刺
11	中国鍼刺入練習②頭部、顔面部、咽頭部
12	中国鍼刺入練習③腹部、陽明排刺
13	中国鍼刺入練習④腰部、下肢の排刺
14	銀鍼刺入練習①刺鍼の手順
15	銀鍼刺入練習②自身の体への刺鍼(旋撚刺法)
16	銀鍼刺入練習③自身の体への刺鍼(雀啄術、回旋術)
17	銀鍼刺入練習④他者の体への刺鍼(下肢)
18	銀鍼刺入練習⑤他者の体への刺鍼(腰部)
19	期末試験
20	期末試験/解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		〇						
授業科目名	臨床実技2					担当者名	大中 孝子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数										40	
授業概要	レディース鍼灸(女性特有の疾患・症状)について治療の考え方、治療法を体得する。										
成績評価	定期試験の成績、出席状況、授業態度を総合的に判断し評価する。										
その他	大中 孝子(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	レディース鍼灸について
2	自律神経の調整(冷え～不定愁訴)
3	婦人科:周期異常
4	婦人科:月経痛①
5	婦人科:月経痛①
6	婦人科:不妊
7	婦人科:骨盤位
8	マタニティ鍼灸:妊娠時へのアプローチ
9	更年期障害
10	美容の鍼①
11	美容の鍼②
12	美容の鍼③
13	美容の鍼④
14	美容の鍼⑤
15	美容の鍼⑥
16	美容の鍼⑦
17	美容の鍼⑧
18	美容の鍼⑨
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	臨床実技3					担当者名		宮原 正人			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	代表的な運動器疾患を題材に局所解剖を理解し、部位・深度・刺入方法で鍼を刺入することができる。										
成績評価	出席状況、試験・レポート、授業態度等、施術に携わる社会人としての自覚を加味して総合的に評価します。										
その他	宮原 正人(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書	解剖学	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版

回数	授業計画
1	腰痛を例に運動器の捉え方
2	中臀筋/パルスと身体の使い方
3	中臀筋ストレッチと刺鍼の比較
4	前脛骨筋への刺鍼
5	下腿三頭筋の見方
6	下腿三頭筋・ヒラメ筋への刺鍼
7	下腿三頭筋内側頭の見方
8	大腿四頭筋の見方
9	膝関節へのアプローチ
10	股関節へのアプローチ①
11	股関節へのアプローチ②
12	股関節へのアプローチ③
13	体幹へのアプローチ①
14	体幹へのアプローチ②
15	頭部へのアプローチ
16	期末試験①
17	下肢筋まとめ
18	期末試験② 吸角の使い方
19	総括①
20	総括②

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	臨床実技4				担当者名	村上 晋介					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	鍼灸臨床でよく見られる不定愁訴を中心に、現代医学的アプローチ、東洋医学的アプローチによる治療を学ぶ。										
成績評価	期末試験および授業態度を考慮し、総合的に評価する。										
その他	村上 晋介(鍼灸施術所においてはり師きゆう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
	配布プリント		

回数	授業計画
1	頸肩腕痛に対する鍼灸治療①
2	頸肩腕痛に対する鍼灸治療②
3	頸肩腕痛に対する鍼灸治療③
4	肩関節痛に対する鍼灸治療① (肩関節周囲炎・腱板炎)
5	肩関節痛に対する鍼灸治療② (肩関節周囲炎・腱板炎)
6	肩関節痛に対する鍼灸治療③ (肩関節周囲炎・腱板炎)
7	腰痛に対する鍼灸治療① (筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛)
8	腰痛に対する鍼灸治療② (筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛)
9	腰痛(下肢症状を伴う)に対する鍼灸治療① (ヘルニア・坐骨神経痛) 坐骨神経刺鍼(鍼通電)
10	腰痛(下肢症状を伴う)に対する鍼灸治療② (ヘルニア・坐骨神経痛) 坐骨神経刺鍼(鍼通電)
11	腰痛(下肢症状を伴う)に対する鍼灸治療③ (ヘルニア・坐骨神経痛) 坐骨神経刺鍼(鍼通電)
12	膝痛(変形性膝関節症・ランナー膝)に対する鍼灸治療①
13	膝痛(変形性膝関節症・ランナー膝)に対する鍼灸治療②
14	胸郭出口症候群に対する鍼灸治療
15	特殊鍼法①
16	特殊鍼法②
17	特殊鍼法③
18	治療のまとめ
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		○						
授業科目名	臨床実技5					担当者名	馬男木 亨				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
			1			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数											40
授業概要	我が国は超高齢社会となり、益々高齢者の割合が増えることが予測される。そこで、東西両方の観点から高齢者特有の疾患・症状を理解し、適切な鍼灸治療を体得する。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	馬男木 亨(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	配布プリント		
参考図書			

回数	授業計画
1	肩凝り、頭痛
2	経絡治療(概要)
3	経絡治療(脈診)
4	眩暈、耳鳴、難聴
5	経絡治療(配穴・治療)
6	排尿障害(夜間頻尿、過活動膀胱、前立腺肥大症)
7	排便障害(便秘、下痢)
8	脳卒中後遺症
9	パーキンソン病
10	不眠
11	うつ
12	運動器症状(腰痛、膝OA)
13	糖尿病
14	帯状疱疹
15	認知症
16	ロールプレイ
17	期末試験
18	期末試験/解答・解説
19	臨床練習①
20	臨床練習②

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
					○							
授業科目名	臨床実習 1					担当者名	大中 孝子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数								45				
授業概要	患者に接する医療人としての姿勢をみにつける医療面接を行う。 医療面接の目的である「ラポールの形成」「情報聴取」「患者教育」の3つの意識づけ。 日常的に行っている人への接し方が、ロールプレイを通じてどのように感じられているのかを「気づき」、自分なりに「受容」「検討」する。											
成績評価	授業後に記載するレポート提出と、定期試験による医療面接のロールプレイにて評価する。											
その他	大中 孝子（鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画	
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	医療面接 医療面接技法 1	
4	医療面接 医療面接技法 2	
5	医療面接 コミュニケーションの方法 1	
6	医療面接 コミュニケーションの方法 2	
7	問診項目の把握・導入の仕方について	
8	カルテの書き方・記入練習	
9	一般問診項目（西洋医学的視点）について	
10	十問診（東洋医学的視点）について	
11	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
12	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
13	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
14	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
15	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
16	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
17	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
18	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
19	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
20	メモを取りながら医療面接 ロールプレイ	
21	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
22	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
23	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
24	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
25	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
26	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
27	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
28	メモを取りながら医療面接（カルテ作成込み） ロールプレイ	
29	総括 1	
30	総括 2	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
					○						
授業科目名	臨床実習2				担当者名	大中 孝子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数								45			
授業概要	これまで習得した技術や技法を用いて、臨床の現場でよくみられる各疾患に対する適切な診察が行えることを目的とする。 また臨床でよく用いられる徒手検査法も反復して行い、技術向上を図る。										
成績評価	試験およびカルテやフィードバック用紙の提出状況、出席状況、服装、衛生的な手技、授業態度等を総合的に評価する。										
その他	大中 孝子(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	OSCE症例(頸部疾患) 1
2	OSCE症例(頸部疾患) 2
3	OSCE症例(頸部疾患) 3
4	OSCE症例(頸部疾患) 4
5	OSCE症例(肩関節疾患) 1
6	OSCE症例(肩関節疾患) 2
7	OSCE症例(肩関節疾患) 3
8	OSCE症例(肩関節疾患) 4
9	OSCE症例(上肢疾患) 1
10	OSCE症例(上肢疾患) 2
11	OSCE症例(上肢疾患) 3
12	OSCE症例(上肢疾患) 4
13	OSCE症例(胸郭出口症候群) 1
14	OSCE症例(胸郭出口症候群) 2
15	OSCE症例(胸郭出口症候群) 3
16	OSCE症例(胸郭出口症候群) 4
17	OSCE症例(腰下肢疾患) 1
18	OSCE症例(腰下肢疾患) 2
19	OSCE症例(腰下肢疾患) 3
20	OSCE症例(腰下肢疾患) 4
21	OSCE症例(膝疾患) 1
22	OSCE症例(膝疾患) 2
23	OSCE症例(膝疾患) 3
24	OSCE症例(膝疾患) 4
25	OSCE症例(足部疾患) 1
26	OSCE症例(足部疾患) 2
27	OSCE症例(足部疾患) 3
28	OSCE症例(足部疾患) 4
29	総括1
30	総括2

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野							
			○							
授業科目名	臨床実習3			担当者名	大中 孝子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	1年次		2年次		3年次	
				1	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数				履修年次等 授業時間数					45	
授業概要	<p>これからの鍼灸師にとって不可欠な能力である医療面接技法のスキルアップさせるために具体的な症例を用いて実習を行う。 実際に臨床現場に必要な人材になるための人格教育、また業務に必要なカルテの記載力向上を図ることを目的とする。</p>									
成績評価	レポート、出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。									
その他	大中 孝子(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)									

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション(臨床実習の進め方)
2	臨床実習に向けての実習①
3	臨床実習に向けての実習②
4	臨床実習に向けての実習③・臨床実習施設での実習
5	臨床実習に向けての実習④・臨床実習施設での実習
6	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
7	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
8	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
9	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
10	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
11	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
12	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
13	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
14	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
15	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
16	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
17	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
18	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
19	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
20	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
21	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
22	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
23	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
24	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
25	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
26	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
27	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
28	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
29	臨床実習施設での実習、グループディスカッション
30	臨床実習施設での実習、グループディスカッション

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		〇						
授業科目名	臨床実習4				担当者名	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、 篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、 馬男木亨、山中良太					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
				1		前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数					授業時間数						45
授業概要	これからの臨床にとって必要な知識と技術の向上を目的に、具体的な症例を用いたシュミレーションを行う。 また、症例から得られた情報をまとめ、カンファレンス形式で発表する。										
成績評価	レポート、出席状況、授業態度等医療人としての自覚を加味して総合的に評価します。										
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	プリント配布		
参考図書			

回数	授業計画
1	概要、医療人としての心得
2	医療面接(SOAP)
3	取穴法の要点と注意事項
4	消毒法の要点と注意事項
5	理学検査の要点と注意事項
6	医療面接(SOAP)②
7	病態把握(弁証)
8	医療面接(SOAP)③
9	理学検査 上肢
10	臨床シュミレーション①
11	理学検査 下肢
12	病態把握(現代医学的疾患)
13	理学検査 MMT,ROM
14	臨床シュミレーション②
15	主要経穴の取穴
16	反射
17	臨床シュミレーション③
18	医療面接～検査の流れ①
19	臨床シュミレーション④
20	臨床シュミレーション⑤
21	臨床シュミレーション⑥
22	医療面接～検査の流れ②
23	症例カンファレンス
24	症例カンファレンス
25	臨床演習
26	臨床演習
27	臨床演習
28	臨床演習
29	臨床演習
30	臨床演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野									
			○									
授業科目名	総合演習1			担当者名	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	人体の構造と機能を解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論を中心に西洋・東洋医学的見地からとらえる。											
成績評価	出席点や宿題、レポート提出により評価する。											
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版) 生理学(第3版) 新版 東洋医学概論 新版 経絡経穴概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	人体の基本的な構造(筋・骨)①
2	人体の基本的な構造(筋・骨)②
3	人体の基本的な構造(循環器)
4	人体の基本的な構造(呼吸器・泌尿器)
5	人体の基本的な構造(消化器)
6	人体の基本的な構造(神経系)
7	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)①
8	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)②
9	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)③
10	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)④
11	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)⑤
12	人体の基本的な機能(循環器・消化器・呼吸器・泌尿器・内分泌系・神経系)⑥
13	人体の基本的な構造(陰陽・五行)①
14	人体の基本的な構造(陰陽・五行)②
15	人体の基本的な構造(陰陽・五行)③
16	人体の基本的な構造(経脈・経穴取穴)①
17	人体の基本的な構造(経脈・経穴取穴)②
18	人体の機能 西洋医学と東洋医学との比較①
19	人体の機能 西洋医学と東洋医学との比較②
20	人体の機能 西洋医学と東洋医学との比較③

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野								
					○								
授業科目名	総合演習2					担当者名		大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、 篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、 馬男木亨、山中良太					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	西洋医学・東洋医学の科目間の連携をはかり、実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。												
成績評価	出席点や宿題、レポート提出により評価する。												
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生理学(第3版) 解剖学(第2版)	佐藤優子・佐藤昭夫他 著 奈良 信夫・佐藤千史他 著 (社)東洋療法学校協会 編	医歯薬出版
参考図書	東洋医学臨床論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋医法学校協会編	医道の日本社

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	鍼灸師になるために必要な準備
3	鍼灸臨床でよく使う手技①
4	鍼灸臨床でよく使う手技②
5	鍼灸師に必要なコミュニケーション①
6	鍼灸師に必要なコミュニケーション②
7	鍼灸臨床でよく使う手技③
8	鍼灸臨床でよく使う手技④
9	鍼灸臨床に必要な生理学
10	鍼灸臨床に必要な臨床医学(総論)
11	鍼灸臨床でよく使う手技⑤
12	鍼灸臨床でよく使う手技⑥
13	鍼灸臨床に必要な生理学②
14	まとめ
15	鍼灸臨床に必要な解剖学
16	鍼灸臨床に必要な臨床医学(各論)
17	鍼灸臨床に必要な臨床医学(総論)②
18	まとめ
19	問題演習(解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論)
20	問題演習②(東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論)

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野									
			○									
授業科目名	総合演習3			担当者名	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、 篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、 馬男木亨、山中良太							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数		前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	これまでに習得した知識を基礎から確認し、応用な知識へと向上させることを目的とする。											
成績評価	期末試験、授業態度、知識及び習熟状況を総合的に評価。											
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 問題演習①基礎(解剖学) 解答・解説
2	
3	問題演習②基礎(生理学) 解答・解説
4	
5	
6	問題演習③基礎(病理学・臨床医学総論) 解答・解説
7	
8	
9	問題演習④基礎(臨床医学各論) 解答・解説
10	
11	
12	問題演習⑤基礎(東洋医学概論・経絡経穴概論) 解答・解説
13	
14	
15	問題演習⑥基礎(東洋医学臨床論・はり理論・きゅう理論)
16	
17	
18	期末試験 解答・解説
19	
20	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野	専門分野							
				○							
授業科目名	総合演習4				担当者名	篠原 卓也					
授業形態	講義	演習	実技	実習	1年次		2年次		3年次		
	単位数	2			履修年次等	前期	後期	前期	後期	前期	後期
				授業時間数							40
授業概要	解剖学と生理学、病理学の科目間の連携をはかり、実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。										
成績評価	原則として、授業態度、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	篠原 卓也(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	解剖学(第2版) 生理学(第2版)	河野邦雄、伊藤隆造他著 佐藤優子・佐藤昭夫他 著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	鍼灸臨床に必要な解剖学 (総論①)
2	鍼灸臨床に必要な解剖学 (総論②)
3	鍼灸臨床に必要な解剖学 (総論③)
4	鍼灸臨床に必要な解剖学 (運動器系①)
5	鍼灸臨床に必要な解剖学 (運動器系②)
6	鍼灸臨床に必要な解剖学 (運動器系③)
7	鍼灸臨床に必要な解剖学 (循環器系①)
8	鍼灸臨床に必要な解剖学 (循環器系②)
9	鍼灸臨床に必要な解剖学 (循環器系③)
10	中間試験 解答・解説
11	鍼灸臨床に必要な解剖学 (循環器系④)
12	鍼灸臨床に必要な解剖学 (循環器系⑤)
13	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系①)
14	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系②)
15	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系③)
16	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系④)
17	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系⑤)
18	鍼灸臨床に必要な解剖学 (神経系⑥)
19	期末試験
20	期末試験/解答・解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野	専門分野							
				○							
授業科目名	総合演習5				担当者名	宮原 正人					
授業形態	講義	演習	実技	実習	1年次		2年次		3年次		
	単位数	2			履修年次等	前期	後期	前期	後期	前期	後期
				授業時間数							40
授業概要	鍼灸理論、病理学概論、臨床医学総論の科目の理解をはかり、実際の鍼灸臨床に役立つようにさらに深く理解することを目的として総合的に学習する。										
成績評価	原則として、授業態度、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	宮原 正人(鍼灸施術所においてははり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	はりきゅう理論 病理学概論 臨床医学総論	教科書執筆小委員会著 滝沢登一郎・畠山茂著 奈良信雄著 (社)東洋療法学校協会編	医歯薬出版 株式会社
参考図書			

回数	授業計画
1	はりきゅう理論 第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識
2	はりきゅう理論 第3章 刺鍼の方式と術式
3	はりきゅう理論 第4章 特殊鍼法
4	はりきゅう理論 第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
5	はりきゅう理論 第7章 鍼灸の臨床応用
6	はりきゅう理論 第8章 リスク管理
7	病理学概論 第2章 疾病(病気)について基本的考え方 第3章 病因
8	病理学概論 第4章 循環障害① ヒトの循環系～出血
9	病理学概論 第4章 循環障害② 血栓症～ショック
10	中間試験
11	病理学概論 第5章 退行性病変
12	病理学概論 第6章 進行性病変
13	病理学概論 第7章 炎症
14	病理学概論 第8章 腫瘍
15	病理学概論 第9章 免疫異常・アレルギー 第10章 先天性異常
16	臨床医学総論 第10章 おもな症状の診察法 1. 頭痛～10. 息切れ
17	臨床医学総論 第10章 おもな症状の診察法 11. 動悸～20. 多尿
18	臨床医学総論 第10章 おもな症状の診察法 21. 浮腫～30. 肥満
19	臨床医学総論 第10章 おもな症状の診察法 31. やせ～40. 貧血
20	期末試験／期末試験解答・解説

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
			○								
授業科目名	総合演習6				担当者名	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、 篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、 馬男木亨、山中良太					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期
授業概要	これまでで習得した知識を応用な知識へと向上させることを目的とする。										
成績評価	原則として、定期試験および追・再試験の結果で評価する。										
その他	大庭慎一郎、村上 晋介、松井恵理、篠原卓也、黒川典子、宮原 正人、馬男木亨、山中良太(鍼灸施術所においてはり師きゅう師として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	東洋医学臨床論 東洋医学概論	教科書執筆小委員会著 (社)東洋療法学校協会編	医道の日本社
参考図書			

回数	授業計画
1	問題演習①応用(医療概論・衛生学公衆衛生学・関係法規) 解答・解説
2	
3	問題演習②応用(解剖・生理学・病理学) 解答・解説
4	
5	
6	問題演習③応用(臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学) 解答・解説
7	
8	
9	
10	問題演習④応用(東洋医学概論・経絡経穴概論) 解答・解説
11	
12	
13	問題演習⑤応用(東洋医学臨床論・はり理論・きゅう理論) 解答・解説
14	
15	
16	
17	期末試験 解答・解説
18	
19	
20	